



所在地：群馬県吾妻郡高山村 大字中山6860-86
電話：0279-70-5300
FAX：0279-70-5544
ホームページ：http://www.astron.pref.gunma.jp/

“南極老人星”に出会う冬!!

～カノープスに挑戦!!～



“カノープス”って?

「りゅうこつ座」という星座にあるカノープスは、明るさが-0.7等の白い星です。「りゅうこつ(竜骨)」というのは、巨大な船の骨組み(船底の背骨の部分)のことで、ギリシャ神話に登場する「アルゴ船」という船の一部です。



【アルゴ船をつくる4星座】
アルゴ船は、りゅうこつ座、とも座、ほ座、らしんばん座の4つからなります。

カノープスは、おおいて座のシリウス(-1.5等)に次いで全天で2番目の明るさをもっていますが、マンガの説明のとおり、地平線ぎりぎりに姿を見せるだけなので、本来よりもやや暗く赤っぽい色に見えます。



オーストラリアで見た、沈むオリオン座とカノープス
(日本国内とは沈む角度がずいぶん違いますね。)

群馬県からは何とか見ることはできますが、東北地方から北では、見るができなくなってしまいます。逆に、南に行けば行くほど見やすくなり、沖縄県あたりでは地平線から10度くらいの高さに明るく輝いて見えます。南半球のオーストラリアやニュージーランドなどでは、見上げるような位置に輝くようすを見ることができます。

地球上でも見る場所によって、星空のようすもずいぶん変わるのでね。

カノープス・データファイル
明るさ：-0.7等
距離：約310光年
表面の温度：7500度(太陽は6000度)
大きさ：太陽の約70倍(超巨星)

長寿を願う星「南極老人星」

「カノープスを見ると、長生きできる」という話があります。中国では、カノープスは「南極老人星」あるいは「寿星」などと呼ばれています。「南極老人」というのは、長寿と幸福をつかさどる神様のことで、日本では七福神の「寿老人」や「福祿寿」として親しまれています。中国では、南が縁起のよい方向と考えられており、冬の限られた時にしか姿を目にすることのできない「南極老人星」が見えるというのは、めったにない、ありがたいことと考えられたのでしょう。中国の昔の首都である洛陽や長安は、東京とほぼ同じくらいの緯度にありますので、当時の人々も、同じように地平線すれすれのカノープスを見ていたのだでしょうね。

★天文台だより★

イベント情報

2009年12月13日(日) ふたご座流星群 説明会&観覧会
流れ星や流星群についての講演会を行うほか、天気が良ければ深夜に観覧会を行います。

2010年3月13日(土)~14日(日) 冬のダイヤモンドを探そう
観覧広場で冬の星座を観察します。ボランティアによる自主企画です。

開館情報

開館時間

施設見学 (火~日) 2月末まで10時~16時 3月から10時~17時

天体観望 (金・土・日・祝日) 2月末まで18時~21時 3月から19時~22時

※天候不良時は「星空解説」等を実施

■火~金の昼間のイベント

(団体予約との競合により会場やスタッフが確保できない場合は中止)

14時~「2階展示解説ツアー」

15時~「150cm望遠鏡デモンストラーション」

■土・日・祝日の昼間のイベント

11時30分~「星間の星」

(天候不良時は「宇宙の立体投影」)

14時~「館内案内ツアー」

15時~「宇宙の立体投影」

(他のイベントで映像ホールを使用している場合は中止)

上記のほか、スタンプラリーやクイズラリーにも参加できます(星間のみ・毎日)

■年末年始の休館日

12月27日(日)~

1月5日(火)は閉館。

(新年は1月6日(水)から開館)

天文講話・談話会

講師をお招きして、宇宙や天文学について楽しく語っていただきます。

※詳細は、ぐんま天文台Webページをご覧ください。

天文台の所在地を示す地図



カノープスの見つけ方は?

南の地平線が遠く見わたせる場所を選びましょう。南側が開けた山の中腹などがおすすめです。右の図とおおよその時刻を参考にしてチャレンジしてみてください。南中時刻の前後30分くらいが観望のチャンスです。

カノープスを見つけるには、オリオン座やおおいぬ座、冬の大きな三角などを目印にするとよいでしょう。オリオン座のベテルギウスが南中してから約30分後にカノープスが南中し、さらにその20分後くらいにおおいぬ座のシリウスが南中します。ベテルギウスとシリウスの真ん中を目安にし、そこから南(下)へと視線を移していくとよいでしょう。あるいは、おおいぬ座の前足と後足の星を結んだ線を伸ばしていてもよいでしょう。ベテルギウスとプロキオンの真ん中とシリウスを結び、その線を南へ伸ばしていくという手もあります。



ステラナビゲーターVer.8にて作成

ぐんま天文台から見た、カノープスが南中した時のようす

12月中旬の0時30分ごろ

1月中旬の22時30分ごろ

2月中旬の20時30分ごろ

(半月ごとに1時間ずつ早くなります)

天文台で見てみよう

●二重星団 (h-χ).....散開星団

ペルセウス座にある散開星団で、2つの散開星団が仲良く並んでいるところからこの名が付いています。カンオベヤ座との境あたりにあり、夜空の暗い所なら肉眼でも見つけることができます。望遠鏡や双眼鏡を使うと、たくさんの星が集まっている様子を観察することができます。



●かに星雲 (M1).....超新星残骸

1054年に、おうし座のこの場所に超新星(星が一生の終わりに大爆発を起こすことがある)が出現しました。その時の残骸がこの天体で、中心付近にはパルサー(中性子星)があります。星雲は今も膨張を続けています。

